



SHUNKEN 2004-11 32-03



駿建

2004年秋期号 Vol.32 No.3 日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

佐藤慎也，芥川文恵，平田真貴



榎本弘之賞 成田 愛

「2004年度 スーパージュリー」が10月2日(土)に、駿河台校舎1号館CSTホールで行われた。これは学年・クラスに分断されて行われている設計科目から優秀作品を一堂に集め、横断的に講評会を行うもの。昨年度に引き続き2度目の開催である。全体講評会に先立ち、9月25日(土)～10月2日(土)の1週間、駿河台校舎1号館CSTギャラリーで展示会が行われ、学部1年から大学院1年までの前期課題から選ばれた優秀作品40点の図面や模型が展示された。

スーパージュリーでは展示作品の中から2年と3年の課題20点について、本人による発表と非常勤講師による講評会が行われた。講評会に参加していただいた非常勤講師の方々は、内田尚宏、榎本弘之、川口英俊、城戸崎和佐、アストリッド・クライン、佐藤文、佐藤光彦、安田博道、山中新太郎(敬称略)の9人の建築家たち。司会を今村雅樹助教が務めた。CSTホールには大勢の学生が詰めかけ、今回初めての試みとしてCCDカメラとビデオカメラを導入し、正面のスクリーンに講評の対象となる図面と模型をリアルタイムで大きく映し出した(表紙写真)。それにより、後ろの席からも緊迫した講評会の様子が十分に感じられ、迫力のある講評会を行うことに成功した。

講評会後はカフェテリアに場所を移し、懇親会が行われ、各参加建築家からスーパージュリー参加者に賞が贈られた。各賞にはそれぞれの建築家の名前が付けられ、激論の末に本人たちが自ら選び出した。以下は、その受賞者発表の際に述べられた、入賞者へ対する各建築家のコメントである。

●内田尚宏賞：加畑亮子(3年)

一番面白そうだと思います。冷静で選びました。冷静にプランや内容を読むといろいろあるけれども、自分のやりたいことがとつても伝わってきた作品でした。そういうことを大事にして今後伸びてほしい。

●榎本弘之賞：成田 愛(2年)

粗削りで、まだ完全ではないと思いますが、妙な機能が無理やりくっつけずに通り抜けの空間として、自分の感覚に基づいて作っているところが好感が持てました。プレゼンテーションもきれいで、思わず目を引きつけられるようなところがよかったです。何よりもよかったのは、お話がうまかったこと。成田君は、聞く人を引きつけるようなしゃべり方ができる。それは宝物ですから大事にしてください。

●川口英俊賞：村木 計(3年)

誰も手を出さなかった中高層にチャレンジしたということと、現代に対する辛辣な皮肉を持っているということの評価しました。ただ、どんなに社会に対して批判的なアイデアを出しても、聞いてもらう人への誠意やさまざまなバックグラウンドがあつてのことなので、よく勉強をしてください。

●城戸崎和佐賞：新川 香(3年)

オバカで元気な案を選びました。できないかも、難しいかも、ということにチャレンジすることが、とても大事だと思います。なぜああいう形なのかということをもっと強い言葉で説明できるように、思考を磨いてください。



内田尚宏賞 加畑亮子



川口英俊賞 村木 計



城戸崎和佐賞 新川 香



アストリッド・クライン賞 松波圭亮



佐藤文賞 柴山裕則



佐藤光彦賞 福井啓介

●アストリッド・クライン賞：松波圭亮（3年）

松波案は、建物とランドスケープが一体となり、それぞれの部屋を特別なレイアウトでちゃんと考えていて、すてきな部屋にしていると思います。

●佐藤文賞：柴山裕則（3年）

Eコースでありながらデザインのことも考慮して、非常にリアリティーのあるものをつくっていたし、模型もきちっときれいにつくっていました。ただ、都市的なものが図面に不足していました。周りの環境がどのような状態で、それに対してどういう提案をしたかということから説明してくれたらもっとよかった。

●佐藤光彦賞：福井啓介（2年）

今後の期待を込めて2年生から選びます。設計としてまとまっているとは言い難いですが、デザインすることへの意欲が感じられました。

●安田博道賞：管野明日美（3年）

自然体で、敷地を見ているなという印象をうけました。宿泊客にとっては、個室を選ぶ楽しみがある提案だと思います。自分が設計する立場ならば、まず管野さんのような発想で考え始めるだろうと思ったのもこれを選んだ理由です。ただ完成度という意味ではまだまだです。

●山中新太郎賞：道家祥平（3年）

道家案だけが、課題に対して抑制の効いた案だった。抑えている分が見る人間の想像力をかき立てる。でも、もう少ししゃべれたほうがよかった。ただ、そういう姿勢で設計するのはいい。

●今村雅樹賞：北條 匠（2年）

北條案は造形的で、フォルムを中心に考えている。住

宅は難しいと一通り先生方に言われたと思いますが、2年の最初の課題としてはよくまとめているのではないかと思います。

（さとうしんや・助手、あくたがわふみえ・助手、ひらたまき・副手）

1年	デザイン基礎	第4課題 空間構成	栗山直樹、田中賢祐、相馬義浩、平岡 舞、松本 隆、春日貴美子、中島 巴、高橋佳久、上野美佳子、辻 さやか、田中秀徳
2年	(新) 建築設計II	第1課題 住宅 第2課題 パブリックスペース	中野義基、横井創馬、中島行雄、北條 匠 瀧口 優、福井啓介、成田 愛、有島佳延
3年	建築設計III	第1課題(Aコース) マルチメディアライブラリー 第1課題(Eコース) まちのライブラリー 第2課題(Aコース) 長者ヶ崎コンプレックス 第2課題(Eコース) 長者ヶ崎セミナーハウス	原田創一、新川 香、加畑亮子、村木 計 柴山裕則、荒井春樹 漆間陽子、松浪圭亮、道家祥平、三好礼益 管野明日美、清水友美
4年	設計演習II	プログラムの 変容と再構築	〈高宮ユニット〉 穂刈 武十村上潤一郎十春永有梨子 〈横河ユニット〉倉沢健一 〈片桐ユニット〉 蔡東 祥十鈴木崇也十菊池真紀子 〈芦原ユニット〉 篠原祥子十渡邊結衣 〈根上・宇於崎・嶋田ユニット〉 斎藤絵美十斎藤芽衣十野中瑞紀
M1	建築デザインI	再生	〈今村ユニット〉上原麻美 〈佐藤ユニット〉二瓶士門 〈藤江ユニット〉奈良賢史 〈横河ユニット〉岩崎大祐

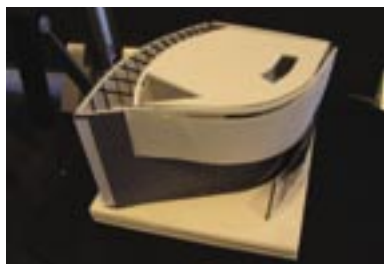
展示出品者リスト



安田博道賞 管野明日美



山中新太郎賞 道家祥平



今村雅樹賞 北條 匠

シーザー・ペリ，日大に来る！

上利益弘

シーザー・ペリ氏による「街づくりにおける建築家の役割」と題する講演会が，続いて横河健氏，陣内秀信氏，光井純氏が加わり「東京のまちづくり」を主題とするパネル ディスカッションが，駿河台校舎 1 号館 CST ホールにて JIA 日本建築家協会主催，日本大学理工学部建築学科ならびにアメリカ大使館後援によって平成 16 年 11 月 1 日に開催された。JIA の小倉会長，大使館のステイブン・ジャックス上席商務官，建築学科の関口教室副主任の挨拶で開会した本会の聴講者数は，約 350 名であった。

我が国にとっても，久々の海外大物建築家による講演会である本企画は，日本大学と JIA との約 1 年半に及ぶ協議と準備を経て，ペリ氏がデザインした国立国際美術館のオープンに参加するための来日にあわせて実現した。

アメリカのコネチカット州ニューヘブーン市に活動拠点を置くペリ氏による建築作品には，マレーシアのクアラルンプールに建つペトロナスタワーをはじめ，東京の在日アメリカ大使館，NTT 新宿本社ビルなどがあり，その他，ロンドン，コルトバ，香港などの都市でのプロジェクトが世界中に点在している。

最近では，ペリ氏が街づくりに関与した提案や作品が多く，デベロッパーとの協同によって，より美しく活気に満ちた都市空間をつくりだしている。

「シーザー・ペリのデザインの中核には，建築は社会という外部からの必要に応じて創造される，という“Design on Response”の考え方があります。建築も社会の一員としての責任があると考えており，その芸術的価値は，地域の特性，建築技術，建設目的を深く理解

することから生まれると考えています。シーザー・ペリはすべてのプロジェクトに直接関わり，事業者と街が望む建築デザインを一つ一つ生み出してゆきます。」（シーザー・ペリ事務所より）

このことが，現在の建築学専攻・建築学科の大学院での授業や 4 年生の設計演習における学習テーマである「建物の発注者や使用者からなるチームによるプログラミングと，これに応じた創造性豊かな建築デザイン」に呼応し，また，これをペリ氏が現実のプロジェクトにおいてとくに実施し，多くの傑作を世に送り出してきたことが窺える貴重な講演であった。

最後に，本企画の成功は，先導して頂いた小嶋理工学部長や片桐建築学科教室主任，ご尽力を頂いた重枝専任講師や教務スタッフ，ならびに在学生による熱意の結実の結果であったことを感謝し報告する。

（講演会企画担当・あがりますひろ・非常勤講師，JIA 国際委員会委員，Int'l Assoc. AIA）

シーザー・ペリ (Cesar Pelli) 略歴

AIA 米国建築家協会特別会員 (FIAA)，米国文芸アカデミー会員，米国建築家協会名誉賞，JIA 日本建築家協会会員，アーノルド B ブルンナー記念賞 (1978 年)，AIA ゴールドメダル (1995 年)

1926 年	アルゼンチン生まれ
1954 年	米国イリノイ大学で建築学修士号を取得 イーロ サーリネンの事務所勤務
1968 年	グルーエン アソシエーツ事務所勤務
1977 年	イェール大学建築学部部長に就任 シーザー・ペリ & アソシエーツを設立



ペリ氏と学生スタッフ集合風景



ペリ氏講演風景



国立国際美術館
（写真提供：
Cesar Pelli and
Associates Japan）

第36回建築学生海外研修旅行報告

建築デザインとテクノロジーの融合を考える旅

今年度のヨーロッパ研修旅行の研修先はオランダ、フランス、スペイン、イタリア、ドイツの5カ国、17都市を巡る旅であった。いずれの都市でも、都市創造のエネルギーに触れることができた。

本研修の特徴としては、引率教員と添乗員を含めると総勢87人が同時に移動したことが、まず挙げられよう。これは、アテネオリンピック後の多くのコンベンション開催に伴い宿泊費の高騰が生じ、2班構成の場合の旅行費の格差を避けるための苦肉の策であった。多人数の旅行に伴うマイナス面も心配されたが、考え得るあらゆる事象に対処できるように工夫を施した。そればかりか、4人の引率教員と2人のベテラン添乗員の協力により、きめ細やかで充実した旅行が実現できたのではないだろうか。

もう一つの特徴は、近代・現代建築の訪問を中心に企画したことである。古き町並みと近代都市の両面を合わせ持つロッテルダムでは、大らかで勢いのあるデザインに、続くパリ、バルセロナ、イタリアの諸都市では、強烈なデザイン・メッセージとそれらを支えるテクノロジーの見事に融合に、圧倒された。ドイツを縦断する後半の旅では、サッカースタジアム、歩道橋、展望タワーを訪れ、テクノロジーが生み出す構造表現の可能性を見ることができた。

なお多くのスタジアムの訪問を予め公共団体などに折衝することで、友好的で熱烈な歓迎を受けることもできた。いずれもテロ警戒中の状況では、一般旅行者の訪問は困難であったに違いない。関係諸氏に感謝を表したい。

さて、いずれの都市でも、心ゆくまで建築を味わうには、少し時間が不足した感否めない。それでも学生達には、普段の授業では経験できない貴重な刺激だったのではないだろうか。少なくとも、ガウディ、コルビュジェ、ミース、ペイ、ヌーベル、ピアノ、ヤーン、カラトラバ、コールハース、ヘルツォークらの建築家や、ネルヴィ、オットー、シュライヒらのエンジニアの名前は、深く刻まれたに違いない。研修旅行の経験が、建築家や構造エンジニアを目指す彼らの今後の成長の糧や契機となることに期待したい。

(岡田 章・助教授)



日程 平成16年8月24日～9月14日

引率 岡村武士助教授、岡田章助教授、八藤後猛助手、佐藤慎也助手
参加学生 80名

(大学院：男子4名、女子1名 4年生：女子4名

3年生：男子53名、女子15名 2年生：男子2名、女子1名)

T / C 浅野直子、根岸有希子(東急観光)



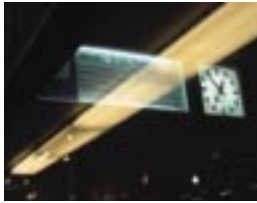
サヴォア邸
(ル・コルビュジェ)

アムスの夜

8/25 Amsterdam

小林智紀（3年）

オランダはアムステルダムのアムステルダムセントラル駅での車窓から。ホテルの最寄り駅に行く終電で、楽しいアムスを去るのが名残惜しすぎる……の一枚。知らない文化に触れることの楽しさに目覚めた第一日目の夜……。



アムステルダムセントラル駅

ダイヤフラムからの景色

8/27 Paris

山田修爾（3年）

アラブ世界研究所のファサードに使用されたこのダイヤフラムは、太陽光の強さによりレンズのように自動的に開閉する。時間により変化する差し込む光はメカニクでアラブ的。これに面する床は、光の絨毯のようだった。



アラブ世界研究所
(J. ヌーベル)

The way to the heritage

8/26 Paris

高木愛子（3年）

新凱旋門から一直線に臨める凱旋門。ドーム型の巨大建築やガラス張りの高層建築など、パリとは全く異なった近代的なデファンス再開発地区にも、しっかりと受け継がれているパリの完璧な都市計画を見せつけられた。



デファンス再開発地区

夜だって寝ないぞ！

8/27 Paris

小山夏季（3年）

寝る時間がもったいない!! 夜のパリを仲間たちだけで、地下鉄をつかって、散策してまわりました。夜中のパリの街は、昼間とは違う美しさがありました。24時間、フル活動。22日間という時間を、大切に使いました。



パリ地下鉄駅

サンダルがフランスとは思えない

8/26 Poissy

櫻井 巧（3年）

サヴォア邸の庭であまりの天気よさに建物そっこのけで昼寝をしている所を激写しました。天気よくてよかったっす。



サヴォア邸
(ル・コルビュジエ)

モンサンミッシェル修道院

8/27 Mont Saint-Michel

末宗一郎（3年）

オプションツアーで行かず、友達と自力で行き着いたという達成感はいい思い出です。海岸にそびえたつ古城は圧巻でした。また、現地は旅行の中でも、一番寒いぐらいの体感温度だったという記憶があります。



モンサンミッシェル修道院

アラブ世界研究所

8/27 Paris

伊東真知子（3年）

パリでの自由研修日。語学留学でパリの大学に在学中の友達との再会。アラブ世界研究所では入館時間が過ぎていたのですが、友達に係員をフランス語で説得してもらい、なんとか入ることができました。やはり言葉でのコミュニケーションは大切です。



アラブ世界研究所
(J. ヌーベル)

カラトラヴァに憧れて

8/28 Barcelona

島川智行（3年）

カラトラヴァの初期の作品をスペインで見ることができた。今の時代、膨大な量の情報を授受できるが、それは体験に勝るものではなく、世界にちりばめられた宝石のような建築を求める旅をまた続けていきたい。



フェリベII世橋
(S. カラトラヴァ)

ミースの空間

8/29 Barcelona

大戸厚史（3年）

バルセロナバヴィリオンの中の真ん中の軸線の上でパシャリ。虚像と実像が並ぶ。「凄いよ。凄いわー。」何回言ったか？ 本物に感激+海外ならではのハイテンションでミースのTシャツ購入。less is more. だ。うーん。

バルセロナバヴィリオン
(ミース. v. d. ローエ)



ガウディの大きさ

8/29 Barcelona

藤巻 学（3年）

サグラダファミリアを一番見たいと思っていて、この写真はサグラダファミリアの真下から撮って自分がその場所に立っていることがわかる写真だから気に入っています。また見上げた時のサグラダファミリアの大きさや雰囲気が一番出していると思ったからでもあります。

サグラダファミリア教会
(A. ガウディ)



なんだね？ キャサリン！

8/30 Barcelona

山内麻莉（4年）

グエル公園在住、猫のライと、グエル公園のアイドル、キャサリンです。お天気のいい日は、いつもこうして、二人なかよく日向ぼっこをしています。（この話は、一部フィクションです。）

グエル公園
(A. ガウディ)



スタディオ・オリンピコ

9/1 Roma

小山聖史（3年）

このスタジアムはASローマのホームスタジアムで、ASローマのファンだったのでここはとても楽しみにしていました。この時だけは研修旅行ということを完全に忘れ、一人のASローマファンとして写真を撮りまわりました。

スタディオ・オリンピコ



憧れの都ヴェネツィア

9/3 Venezia

長谷川実佳（3年）

小さい頃からの憧れの都だったヴェネツィアは、海の上に浮かぶ素敵な街で、人口地盤の上に建っているなど微塵も感じさせない立派な建物ばかりで圧倒させられました。世界には、色々な建築の仕方があることを再認識しました。

ヴェネツィア



30分120ユーロの旅……

9/3 Venezia

高橋いずみ（3年）

想像以上に観光化されていたヴェネツィアも、ゴンドラに乗ってみると、その景色は一変しました。路地裏や洗濯物が見えたり、住民が犬と散歩していたり、どこからともなく音楽が聞こえてきたり……。リアルト橋も絶景でしたが、水と共に生活するヴェネツィアの人々の生活を、間近で感じることができました。

リアルト橋



シュバン湖

9/4 Hohenschwangau

小川裕子（2年）

ノイシュバンシュタインの階段の窓から見えた、城の近くのシュバン湖。去年の研修では、辺り一面霧で城もかくれてしまって見えなかったらしい。豪華絢爛な城の中を見ているとよけいにひっそりと感じられて綺麗だった。

シュバン湖



構造の国ドイツ！

9/5 Munchen

柴山裕則（3年）

ドイツで構造のすごさを感じた。最も感動したのはフライ・オットーのミュンヘン・オリンピック競技場だ。形態を造っているさまは一枚の布をつまんだり、引っ張ったりしたようにして自然の一部を形に表しているようだった。「自然と構造体」の一つを見ることができてよかった。

オリンピック競技場
(G. ベーニッシュ, F. オットー)



Bird Cage

9/6 Munchen

長嶋明大 (M1)

ドイツで一番見たかったのがこれらケーブルネットを使った建築です。写真ではわからない詳細な部分をぜひ自分の目で見てみたいと思っていました。実際に細かい部分をみようと思っただけで、虫に刺され大変でしたが…。

ミュンヘン動物園の鳥かご
(F. オットー)



ドッキリ

9/8 Stuttgart

大室諒知 (3年)

これはドイツのシュトゥットガルトにあるシュターツ・ギャラリーに展示されていた作品。あまりにリアルで周りの宗教画よりもそのおばさんが気になってしょうがなかった。もしかしてこれってドッキリ？(笑)

シュターツ・ギャラリー
(J. スターリング)



ケルハイムの歩道橋

9/7 Kelheim

竹本孝輔 (2年)

J・シュライヒの作品からは一貫して工学的な美を感じ。明快な構造システム、巧みなケーブルの使い方や洗練された金物のディテールは緩やかな形態を作り出している。構造芸術の素晴らしさをしっかりと受け止めた。

ケルハイムの歩道橋
(J. シュライヒ)



三角形の中

9/8 Stuttgart

加藤 暢 (3年)

かつての燃料庫を利用したそのフォルムは美しい三角形を描き静かにそこに佇んでいた。4枚のスチールとアクリルからなる羽根の下にはこじんまりとした売店、その隣のベンチでバスを待つ人、日本の恋人に電話をする友人、全てが三角形の中に収まっていた。

フォイヤーバッハ駅
(G. ベーニッシュ)



橋と笑顔と郷愁と

9/7 Kelheim

澤 英俊 (2年)

これは今回の研修中に色々お世話になったある先輩の写真です。先輩方には研修中に誘っていただいて、建物や構造について教えていただいたり、宴会に呼んでいただいたりと、とてもいい思い出ができました。

エッシングの木造橋



ケーブルネットの神秘

9/8 Stuttgart

森山卓也 (3年)

これはシュトゥットガルトにある歩道橋です。ケーブルネットにツタを絡ませて緑の絨毯にする、という発想や、バリアフリーのために階段を用いずに緩やかなカーブにする、という考えに感動しました。

ケーブルネットの歩道橋
(J. シュライヒ)



高橋哲平サプライズ移籍

9/7 Stuttgart

高橋哲平 (3年)

9月未明、ドイツのシュトゥットガルトにあるダイムラー・スタジアムで急遽行われた記者会見の様。佐藤慎也先生(仮名)と共に颯爽と登場した高橋選手は、終始笑顔でこの地を去った。

ダイムラー・スタジアム
(J. シュライヒ)



ドイツの友人

9/8 Stuttgart

坂本憲太郎 (M1)

資料でしか見られない建築に直に触れられたことに感動しました。でも、その国の人と触れ合うことはとても重要なことです。だから、ドイツで出会えた2人の友人と一緒に撮った写真がこの旅行の一番好きな写真です。

キルスベルグ公園



スパインを試す！

9/8 Stuttgart

河地希美（3年）

シュトゥットガルト大学にあるハイソーラー研究所で、私たちは構造上のスパイン（背骨）となる赤いスティールチューブの上に乗って、スパインの強さを試していました。そのとき、通りかかった学生に撮ってもらった一枚です。



ハイソーラー研究所
(G. ペーニッシュ)

ライヒスタークをみて

9/12 Berlin

河内仁以奈（3年）

わたしは、このガラスのドームの中に入ったとき今までにない衝撃を受けました。まるで、未来映画の中に出てくるようなカタチ。写真でこの建物のカタチは知っていたのですが、写真と実際に目にする光景は違いました。



ライヒスターク
(N. フォスター)

タービン工場回転窓

9/11 Berlin

坂井 初（M1）

古典主義を思わせる外観の全体像よりも、僕の興味はディテールに集中した。3ピンアーチの脚部が有名だが、何と言っても回転式の窓のディテールがシンプルで非常に美しかった。次は是非内部の無柱空間も味わいたい。



AEGタービン工場
(P. ペーレンス)

ミュンヘン動物園

9/12 Berlin

佐藤裕子（M2）

ミュンヘンより途中参加。建築や橋など多様なものにふれた。なかでも面白かったのが動物園や歩道橋。歩道橋はフォルムが力の流れとデザインされており、見える力学といった感じであった。街中のバス停やサインなどのデザインも興味深かった。



ベルリン動物園のカバ舎
(J. シュライヒ)

憧れのシンケル

9/11 Berlin

角川聡一（3年）

この旅行では、1年次からの憧れであったK.F.シンケルの建築と初対面がなかったことが一番記憶に残っています。写真はファサードだけですが、このアルテスムゼウムの内部のドームが圧巻で、に入った瞬間に中心に引き寄せられるような感覚に陥るトリックが仕掛けられています。この体験は今後とも忘れられないと思います。



アルテスムゼウム
(K. F. シンケル)

ヤーボン

9/12 Berlin

佐藤直樹（3年）

ザハのマンションにて。建築案内の地図が間違っていたために2時間近く歩いてやっとついたら子供たちが迎えてくれました。なお、この写真は子供たちからのNGにより撮りなおした2枚目です。



IBAの集合住宅
(Z. ハディド)

ベルリンフィルハーモニー

9/11 Berlin

本間章久（3年）

ベルリンフィルハーモニーに行きコンサートホールというものの概念が自分の中でかわりました。舞台が360度客席に囲まれていて演奏者と観客が一体となって同じ空間を楽しむことができるすばらしいホールだと思いました。



ベルリンフィルハーモニーホール
(H. シャロウン)

ベルリンの壁

9/12 Berlin

小林 彩（3年）

今もベルリンの壁があった跡がちゃんと線として残っている。本当に昔ここにあったのだろうかと思わされる都市の発達ぶりに驚くばかりでした。妄想壁に手をあてて昔を感じとっているシーンです。



ベルリンの壁

オリエンテーション報告

田嶋和樹



エコバの前で記念撮影
(Eコース)



法隆寺宝物館へ向かう軽やかな足取り
(Hコース)

6月19日（土）に、2年生を対象としたオリエンテーションが実施されました。このオリエンテーションは、学生と教員が実際の建築物を教材として建築について考える見学会であり、毎年恒例行事として実施されております。本格的な建築の専門分野の勉強が始まった2年生ですが、各分野で活躍されている教員と触れ合うことによって、建築を様々な角度から見る面白さを体験できたのではないのでしょうか。一方、我々教員にとっても、毎日の授業とは違った学生の一面を発見できた良い機会であったと思います。

本年度のオリエンテーションでは、各先生方のご協力のおかげでユニークな企画を計画することができました。本年度においては、特に来年度から導入されるコース制を意識して、環境・構造コース、設計・計画コースおよび企画経営コースにちなんだコースを9コース計画し、学生が様々な分野のコースを選択できるようにしました（右表参照）。なお、Aコース～Gコースは貸切バスで、Hコースは徒歩で見学場所を移動しましたが、初夏の晴天に恵まれた絶好の建築見学日和でしたので、皆さんの足取りも軽かったのではないのでしょうか（徒歩のHコースは暑さのためバテ気味でしたが…）。また、当日は昼食時や見学後に懇親の場も用意されており、普段の授業とは違った形で教員と学生がコミュニケーションを図れたと思います。

本年度のオリエンテーションには、272名（参加率89.2%）の学生が参加しました。参加申込の受付の際には、受付時間の前から長蛇の列ができており、オリエンテーションに対する学生の関心の高さが感じられました。本年度終了時にはコースの選択をしなければならない2年生ですが、このオリエンテーションでの経験が自分の将来について真剣に考える良い材料となることを願います。

（2年生クラス担任・たじまかずき・助手）

Aコース『神奈川県の近代建築を訪ねる』 ポーラ美術館 他 ◎若色峰郎、渡辺富雄
Bコース 『Klein Dytham Architecture の Leaf Chapel を見に行く』 Leaf Chapel, リゾナーレ 他 ◎高宮眞介、本杉省三、今村雅樹、 佐藤慎也、芥川文恵、平田真貴
Cコース『横浜市内話題の施設見学と山下公園・港エリア、 みなとみらい21エリア探訪』 みなとみらい21エリア 他 ◎野村 勲、八藤後 猛
Dコース『近代和風大邸宅・遠山邸と蔵造りのまち川越散策』 川越及びその近郊 ◎片桐正夫、清水五郎、大川三雄、重枝 豊
Eコース『設計者とエコバに行こうツアー'04』 静岡スタジアム（エコバ）、資生堂アートハウス、 横浜大根橋客船ターミナル ◎斎藤公男、岡田 章、宮里直也（非常勤講師）
Fコース 『建築物の環境性能（音、熱、光、空気等）について体感しよう』 都市基盤整備公団八王子試験研究センター、 西武園遊園地、西武ドーム、掬水亭 ◎井上勝夫、早川 眞、半貴敏夫、宇杉和夫、橋本 修、 富田隆太、藤居秀男（非常勤講師）
Gコース 『歴史と未来の共存する都市・横浜の都市デザインと建築』 みなとみらい中央地区 他 ◎三橋博巳、根上彰生、宇崎崎勝也、柳田 武、長谷川育生
Hコース『古き良き建築を生かすための構造技術』 国立西洋美術館、国際こども図書館、東京国立博物館、上野駅 ◎白井伸明、安達俊夫、山田雅一、田嶋和樹

（左）研究センター職員の説明を聞く真剣な眼差し（Fコース）
（右）クライン非常勤講師設計のチャペルを見学（Bコース）



2004年度 日本建築学会大会(北海道)

建築学科教室関係者発表論文リスト

○印 発表者

材料施工・防火

1036 南極昭和基地で1年間保管されたアルミナセメントを用いたコンクリートの強度発現について ○内藤正昭(日本大)・平山善吉

1049 石炭灰溶融化スラグ有効利用システムの研究 その6 硬化コンクリートの耐久性試験 ○原孝志(開発設計コンサルタント)・石川嘉崇・友澤史紀

1050 石炭灰溶融化スラグ有効利用システムの研究 その7 高強度コンクリートへの適用性 ○友澤史紀(日本大)・石川嘉崇・原孝志

1051 石炭灰溶融化スラグ有効利用システムの研究 その8 各種スラグとの比較検討 ○熊谷茂(清水建設)・石川嘉崇・友澤史紀・木村博

1052 石炭灰溶融化スラグ有効利用システムの研究 その9 スラグ界面の検討 ○木村博(清水建設)・石川嘉崇・友澤史紀・熊谷茂

1194 資源循環型コンクリートの設計戦略・製造技術に関する研究 その1 広義の環境側面とニーズ抽出への一考察 ○田村雅紀(東京都立大学)・兼松学・野口貴文・友澤史紀

1465 木質系箱形部材の性能に関する基本的研究 ○平野修也(日本大大学院)・清水五郎

構造Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ

20004 南極昭和基地における並列建物模型周辺のスノウドリフト観測 ○高橋弘樹(日本大大学院)・半貫敏夫

20005 並列箱型模型群周囲に発生するスノウドリフトに関する吹雪風洞実験 ○荒井恵太(日本大大学院)・穴戸武志・遠藤悠介・半貫敏夫

20208 セメント系砂質改良土の強度・変形特性 その8 初期せん断弾性係数と排水せん断強度の関係 ○山田雅一(日本大)・安達俊夫

20225 液状化による直接基礎の沈下挙動と沈下予測に関する研究 その1 実験概要と実験結果 ○倉崎勝則(日本大大学院)・安達俊夫・山田雅一・原寛武・原田健二・吉富宏紀・出野智之・安達俊夫

20226 液状化による直接基礎の沈下挙動と沈下予測に関する研究 その2 沈下解析と沈下予測法 ○原寛武(国土交通省)・安達俊夫・山田雅一・倉崎勝則・原田健二・吉富宏紀・出野智之

20230 廃タイヤチップを利用した振動低減材の開発 その1 動的特性 ○酒匂教明(日本大大学院)・安達俊夫・彦坂憲和・舟木崇

20231 廃タイヤチップを利用した振動低減材の開発 その2 解析結果 ○彦坂憲和(日本大大学院)・安達俊夫・酒匂教明・舟木崇

20289 小規模建築物基礎設計に関する研究 その1 戸建住宅の基礎の設計および地盤調査の現状 ○藤井衛(東海大)・安達俊夫

20290 小規模建築物基礎設計に関する研究 その2 造成地盤における戸建住宅の不同沈下事例 ○安達俊夫(日本大)・藤井衛

20291 小規模建築物基礎設計に関する研究 その3 地形区分からみた戸建住宅の基礎種別選定に関する一考察 ○村上満(アキュテック)・藤井衛・安達俊夫・田中英輔・斎藤博

20292 小規模建築物基礎設計に関する研究 その4 スウェーデン式サウンディングによる地盤評価に関する研究 ○水谷羊介(兼松日産農林)・田村昌仁・藤井衛・安達俊夫

20293 小規模建築物基礎設計に関する研究 その5 ローム地盤におけるスウェーデン式サウンディング試験結果の評価について ○郭賢治(トラバース)・渡辺佳勝・相沢彰彦・藤井衛・水谷羊介・大橋修・安達俊夫

20294 小規模建築物基礎設計に関する研究 その6 スウェーデン式サウンディング試験結果に基づく一軸圧縮強さの推定方法について ○工藤賢二(積水ハウス)・郭賢治・藤井衛・安達俊夫

20295 小規模建築物基礎設計に関する研究 その7 地業方法による転圧効果の影響 ○後藤年芳(中研コンサルタント)・黒柳信之・田村昌仁・藤井衛・安達俊夫

20296 小規模建築物基礎設計に関する研究 その8 土質及び地業材料による転圧効果の影響 ○黒柳信之(パナホーム)・後藤年芳・田村昌仁・藤井衛・安達俊夫

20297 小規模建築物基礎設計に関する研究 その9 基礎地業の施工方法が平板載荷試験結果に与える影響 ○中村博(東海大大学院)・藤井衛・新井マウリシオ・伊集院博・齊藤年男・安達俊夫

20298 小規模建築物基礎設計に関する研究 その10 セメント系固化材による深層混合処理地盤の品質評価 ○松下克也(ミサワホーム)・伊集院博・黒柳信之・住友義則・平田茂良・藤井衛・安達俊夫

20299 小規模建築物基礎設計に関する研究 その11 スウェーデン式サウンディング試験結果から求めたソイルセメントコラムの極限支持力について ○伊集院博(旭化成ホームズ)・松下克也・黒柳信之・住友義則・平田茂良・安達俊夫・藤井衛

20300 小規模建築物基礎設計に関する研究 その12 戸建住宅基礎の修復方法について ○伊奈潔(中央建鉄)・藤井衛・安達俊夫

20301 小規模建築物基礎設計に関する研究 その13 基礎設計による道路交通振動緩和の一事例 ○近者淳史(報国エンジニアリング)・藤井衛・安達俊夫

20302 小規模建築物基礎設計に関する研究 その14. 杭頭接合部の力学性状について実験概要 ○青島一樹(大成建設)・福田一久・真島正人・藤井 衛・安達俊夫

20303 小規模建築物基礎設計に関する研究 その15. 杭頭接合部の力学性状について実験結果 ○真島正人(大成建設)・青島一樹・福田一久・藤井 衛・安達俊夫

20379 改良地盤に支持された基礎ブロックの起振実験 その1 起振実験の概要及び柱状地盤改良体の材料試験 ○羽根田 治(日本大大学院)・下村幸男・川村政史・秦 一平・石垣秀典・石丸辰治

20380 改良地盤に支持された基礎ブロックの起振実験 その2 基礎の動特性 ○池田能夫(大成建設)・下村幸男・川村政史・羽根田 治・石丸辰治

20381 改良地盤に支持された基礎ブロックの起振実験 その3 基礎側面部の減衰効果 ○下村幸男(日本大短大)・池田能夫・三澤綾子・川村政史・秦 一平・石丸辰治

20456 レンズ型二重空気膜構造の基本構造特性 その1 小規模模型実験による検討 ○柳井麻里(大和工務リース)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・佐藤裕子

20457 レンズ型二重空気膜構造の基本構造特性 その2 数値解析による適用性の検討 ○佐藤裕子(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也

20460 ハイブリッド・アルミドームの構造設計(その1) 構造計画概要 ○金田勝徳(構造計画プラス・ワン)・斎藤公男

20461 ハイブリッド・アルミドームの構造設計(その2) アルミドームの各部の設計 ○小林真一郎(構造計画プラス・ワン)・金田勝徳・大久保昌治・桧山裕二郎・加藤史郎・斎藤公男

20462 ハイブリッド・アルミドームの構造設計(その3) 層せん断力係数と終局耐力の評価 ○桧山裕二郎(住軽日軽エンジニアリング)・前田佐登男・小林真一郎・加藤史郎・斎藤公男

20463 ハイブリッド・アルミドームの施工 その1 全体施工計画 ○新村達也(清水建設)・斎藤公男・皿海康行・中島 肇・兼光知巳・谷口尚範

20464 ハイブリッド・アルミドームの施工 その2 部材応力および変形の計測管理 ○中島 肇(清水建設)・斎藤公男・新村達也・兼光知巳・水口 茂・西川泰弘

20465 多雪地域における大断面集成材を用いた張弦梁構造の設計と施工 秋田県立総合武道館(仮称)の構造計画 ○城戸隆宏(山下設計)・斎藤公男・岡田 章・近藤豊史・早野裕次郎・山縣信一郎

20466 ガラスファサードに用いるテンション・トラスの構造特性に関する基礎的研究 その3 張力導入計画と施工時の張力変化について ○宮田義之(フィグラ)・斎藤公男・岡田 章・金田勝徳・佐藤英次・宮里直也

20467 集積型木質吊屋根構造の構造特性に関する基礎的研究 その1 構造システムの位置付けおよび形状形成時の構造特性 ○岩淵佳隆(佐藤総合計画)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・梅澤由香利

20468 集積型木質吊屋根構造の構造特性に関する基礎的研究 その2 基本的構造特性および適用事例について ○梅澤由香利(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・岩淵佳隆

20469 六角形平面を有する単層トラスドームの構造特性に関する基礎的研究 ○金子尚史(鹿島建設)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・堀井智紀

20470 単層2方向格子の座屈挙動に関する基礎的研究 ○鈴木晴信(パナホーム)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・千田健二

20478 テンション材の緩みを考慮したストリング式骨組架構(SKELSION)の動的な基本特性 その1 ストリングの緩みによる動的影響 ○堀井智紀(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・関口洋平

20479 テンション材の緩みを考慮したストリング式骨組架構(SKELSION)の動的な基本特性 その2 多雪地域におけるSKELSIONの導入初期張力の低減手法について ○関口洋平(梅沢建築構造研究所)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也

20485 膜仕上材を考慮した張弦シザーズ構造の構造挙動に関する研究 その1 仕上材初期張力の影響について ○濱野伸洋(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・田中 晃・後関孝啓

20486 膜仕上材を考慮した張弦シザーズ構造の構造挙動に関する研究 その2 建て方時の構造挙動について ○後関孝啓(日本設計)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・田中 晃・濱野伸洋

20491 面内圧縮抵抗を考慮したMJGガラス構法の適用性について ○市川雄一(小田急建設)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也

20492 多面体の仮設建築物への適用について 菱形12面体の適用性に関する基礎的研究 ○高橋令奈(池下設計)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・徳増統史

20493 柔なアンブレラ構造の基礎的応用について ○廣田麻衣(サダリ構造設計室)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・豊嶋昭彦

20494 サスペンダー・パネルによる4ピン式テンセグリック構造に関する研究 小規模仮設建築における空間構成の提案と試行 ○福島孝志(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・清水建吾

21054 制震構造システムを設置した伝統木造架構の実大動的加力実験 その1 実験概要及び木造架構の動特性 ○山中祐一(日本大大学院)・石丸辰治・石垣秀典・秦 一平・吉田明義・宮島洋平・大倉久礼・二見泰史

21055 制震構造システムを設置した伝統木造架構の実大動的加力実験 その2 アンブレラダンパー設置時の動特性 ○大倉久礼(日本大大学院)・石丸辰治・石垣秀典・秦 一平・宮島洋平・山中祐一・二見泰史・西塚 正

21056 制震構造システムを設置した伝統木造架構の実大動的加力実験 その3 等価線形化法による減衰性能評価 ○宮島洋平(i2S2)・石丸辰治・石垣秀典・秦 一平・山中祐一・大倉久礼・二見泰史

21057 制震構造システムを設置した伝統木造架構

の実大動的加力実験 その4 水平2方向動的加力実験
結果 ○二見泰史(日本大大学院)・石丸辰治・石垣秀典・
秦 一平・山中祐一・大倉久礼

21121 慣性接続要素を有する1質点振動系の地震
応答性状に関する研究 その1. 慣性接続要素の概要

○齊木健司(三井住友建設)・光阪勇治・古橋 剛・石丸辰治

21122 慣性接続要素を有する1質点振動系の地震
応答性状に関する研究 その2. 慣性接続要素の応答解
析手法 ○光阪勇治(三井住友建設)・齊木健司・古橋 剛・
石丸辰治

21123 慣性接続要素を有する1質点振動系の地震
応答性状に関する研究 その3. 慣性接続要素を有する
振動系の応答スペクトル ○古橋 剛(三井住友建設)・
石丸辰治

21129 トグル・ストラット・ストリング・システム
(TSSS)に関する基礎的研究 その1 解析的検討
○山口 潤(前田建設工業)・石丸辰治・石垣秀典・秦 一平・
古橋 剛・藤田和典

21130 トグル・ストラット・ストリング・システム
(TSSS)に関する基礎的研究 その2 実大実験による
検討 ○藤田和典(日本大大学院)・石丸辰治・石垣秀典・
秦 一平・齊木健司・山口 潤

21482 P-Δ効果がせん断型多層骨組の倒壊に及ぼす
影響 ○遠藤悠介(アサカ設計事務所)・半貫敏夫・秋山 宏

22236 接着合板の強さに関する基礎的研究

○岸 明(日本大)・平山善吉・半貫敏夫・佐藤 理

22237 木質耐力壁の仕口補強に関する実験的研究
○佐藤 理(日本大大学院)・平山善吉・半貫敏夫・岸 明

22361 露出型鉄骨柱脚の履歴特性に関する実験的
研究 その1 実験計画及び実験結果 ○小久保 彰(日
本大大学院)・柳田佳伸・半貫敏夫・秋山 宏

22362 露出型鉄骨柱脚の履歴特性に関する実験的
研究 その2 降伏耐力の評価 ○柳田佳伸(日本大
大学院)・半貫敏夫・小久保 彰・秋山 宏

22390 P-Δ効果を受ける角形鋼管柱モデルの崩壊
挙動 梁剛比をパラメータとした数値解析 ○岩佐州紘
(日本大大学院)・日下元彦・半貫敏夫・秋山 宏

23001 廃棄物の基本物性と構造物への適用性評価
に関する研究 その1 複合材の特性と内部機構(Type
Ⅲ) ○岩田成子(日本大)・岡村武士・佐藤眞介

23002 廃棄物の基本物性と構造物への適用性評価
に関する研究 その2 細骨材との内割置換(TypeⅣ)
○佐藤眞介(商報舎)・岡村武士・岩田成子

23036 コンクリートのひび割れ幅の解析的評価に関
する検討 その1 コンクリートのひび割れ幅の計測
○中村隆大(日本大大学院)・田嶋和樹・白井伸明

23037 コンクリートのひび割れ幅の解析的評価に関
する検討 その2 数値解析によるひび割れ幅の評価
○田嶋和樹(日本大)・中村隆大・白井伸明

23038 軟化モデルがRC造ボックス型耐震壁のプレ
ーストピーク挙動に及ぼす影響に関するFEM解析
○尾崎龍太郎(日本大大学院)・田嶋和樹・白井伸明・鳥田

晴彦

23039 FEM段階解析による制震ブレースバルコ
ニー先端取付部の性能確認 ○惟 義英(日本大大学院)・
横内 基・北嶋圭二・白井伸明・安達 洋・田嶋和樹

23040 外付けブレースが取付く既存梁端部の
ねじり挙動に関する解析的検討 ○横内 基(青木あす
なる建設技研)・北嶋圭二・白井伸明・安達 洋

23100 鉄筋コンクリート造有孔梁の破壊挙動に関
する解析的研究 (その1) 解析方法 ○渡部 憲(東海
大)・五十嵐一洋・白都 滋・田嶋和樹・白井伸明

23101 鉄筋コンクリート造有孔梁の破壊挙動に関
する解析的研究 (その2) 解析結果 ○五十嵐一洋(日
本大大学院)・渡部 憲・白都 滋・田嶋和樹・白井伸明

23107 軸筋の付着を除去したRC梁・柱の力学的挙
動に関する実験的研究 実験概要と実験結果 ○石井明
男(日本大大学院)・浜原正行・中山 優

23460 PCaPC造柱・梁接合部の終局強度に関する
実験的研究 その1 実験概要と実験結果 ○藤田 亮
(日本大大学院)・佐藤信夫・末次宏光・浜原正行・中山 優

23461 PCaPC造柱・梁接合部の終局強度に関する
実験的研究 その2 実験結果に対する考察 ○佐藤信
夫(日本大大学院)・藤田 亮・末次宏光・浜原正行・中山 優

23462 接合部を有するPC部材の復元力特性に及ぼ
す梁主筋径の影響 その1 実験概要 ○緑川敬介(日
本大大学院)・佐藤信夫・末次宏光・浜原正行・岡田 満・
内田龍一郎

23463 接合部を有するPC部材の復元力特性に及ぼ
す梁主筋の影響 その2 実験結果と考察 ○内田龍一
郎(松井建設)・佐藤信夫・緑川敬介・末次宏光・浜原正行・
岡田 満

環境工学Ⅰ,Ⅱ

10046 ユニバーサルデザイン整備を目的とした漁
業就労者の作業強度に関する実験的検討 ○加藤信崇(日
本大大学院)・吉野泰子・近藤健雄・木本正治

40001 学校の音環境の現状と課題 ○福山忠雄(戸
田建設技研)・土屋裕造・井上勝夫・山崎芳男

40010 明瞭度と音像定位方向知覚に対して貢献す
る拡声音周波数特性の検討 残響、ノイズ下における避
難誘導に対する拡声音周波数制御法の適用 その1.

○山崎大輔(日本大大学院)・橋本 修・井上勝夫・天野圭介

40011 拡声音の周波数制御を用いた音声誘導の有
効性について 残響、ノイズ下における避難誘導に対
する拡声音周波数制御法の適用 その2. ○天野圭介
(TOA)・橋本 修・井上勝夫・山崎大輔・山口琢二

40013 発話音声のフィードバック音が「話しにく
さ」評価に与える影響 舞台空間における発話時の「話
しにくさ」評価に関する研究 その1 ○橋本 修(日
本大)・井上勝夫・佐々木禎枝

40014 舞台周りの音響特性と発話音量の変化が「話
しにくさ」評価に与える影響 舞台空間における発話時
の「話しにくさ」評価に関する研究 その2 ○佐々木
禎枝(若林音響)・橋本 修・井上勝夫・菅沼太郎

40030 森林空間の残響特性予測のための音響調査
○西水流大典(日本大大学院)・星 和磨・羽入敏樹・関口
克明

40031 アンケート調査に基づくホール音場におけ
る音イメージの言語表現に関する一考察 ○藤井康太(日
本大大学院)・星 和磨・羽入敏樹・関口克明

40032 ホール音場で知覚される音像と要素感覚の
関係 ○渡部真己(日本大大学院)・関口克明・羽入敏樹・
星 和磨・林 美予子

40048 集合住宅の遮音性能に関する性能表現 住
宅購入時の消費者要求と住宅性能表示制度:その6
○阿部今日子(日本 ERI)・井上勝夫・富田隆太・福島寛和

40049 集合住宅の遮音性能に影響を与える要因
住宅購入時の消費者要求と住宅性能表示制度:その7
○井上勝夫(日本大)・阿部今日子・富田隆太・福島寛和

40092 大型スラブの床衝撃音とインピーダンス特性
○池浦春華(積水化学工業)・井上勝夫・富田隆太・柳沼勝夫

40101 天井ボードの振動制御に関する実験的検討
高剛性スラブの床衝撃音に対する天井の影響に関する研
究:その3 ○山内 崇(戸田建設技研)・井上勝夫・松岡
明彦

40105 高齢者グループ分類が歩行時の感覚評価に
与える影響について 高齢者歩行時の住宅床に関する研
究:その5 ○富田隆太(日本大)・井上勝夫

40164 空間を対象とした明るさ感評価研究の現状
の分類と相互の関係性 ○加藤未佳(日本大)・関口克明

40204 計画者と居住者を対象とした住居の光環境
に関するアンケート調査から見た照明計画の現状 ○木
村真由子(日本大大学院)・加藤未佳・関口克明

40229 地域の特性を考慮した夜間街路の照明計画
に関する一考察 ○下坪武史(日本大)・関口克明・村井聡
子・角館政英

40231 交差点認知を考慮した夜間街路の光環境に
関する研究 ○永井俊介(日本大大学院)・関口克明・角館
政英

40232 夜間街路における照明要素が持つ目印とし
ての機能 ○本村 洋(日本大大学院)・角館政英・関口克明

40414 身体障害者の温熱環境に関する研究XIV
ホームページの掲示板に書き込まれた頸髄損傷者の温熱
環境に対する意識 ○三上功生(日本大大学院)・吉田 燦・
青木和夫・蜂巣浩生

40485 集合住宅のバルコニー空間におけるパッシ
ブシステムの適用とライフスタイルに関する検討 ○吉
野泰子(日本大短大)・高橋 渉・関口克明

40569 屋内外での電波伝播特性と衝突による回折
効果 ○高野洋一(日本大大学院)・井上勝夫・鈴木涼太

41072 中国都市住宅における設備と室内温熱空気
環境に関する実態調査 その7 ハルビン及び上海にお
ける夏期調査の結果 ○重野貴之(東京電力)・吉野 博・
吉野泰子・張 晴原・李 念平・李 振海・劉 京・宮坂拓之

41073 中国都市住宅における設備と室内温熱空気
環境に関する実態調査 その8 ウルムチ及び昆明にお

ける冬期調査の結果 ○宮坂拓之(東北大大学院)・吉野
博・吉野泰子・張 晴原・持田 灯・李 念平・李 振海・
重野貴之

41074 中国都市住宅における設備と室内温熱空気
環境に関する実態調査 その9 個人曝露濃度および健
康リスクアセスメント ○倪 悦勇(東京大大学院)・熊
谷一清・吉野 博・吉野泰子・張 晴原・持田 灯・重野貴之・
宮坂拓之・柳澤幸雄

41345 混合・置換切り替え空調方式をもつ講堂の換
気特性 その1 両空調方式における二酸化炭素濃度分
布と温度分布 ○坪山北斗(日本大大学院)・早川 眞・山
岡 琢・鳥越順之・水ト慶子

41346 混合・置換切り替え空調方式をもつ講堂の換
気特性 その2 在室者による二酸化炭素ガスを用いた換
気量の推定 ○早川 眞(日本大)・坪山北斗

41590 簡易ダブルスキンで構成されたロビーの空
調・換気システム(その1)計画概要 ○山岡 琢(佐
藤総合計画)・早川 眞・鳥越順之・水ト慶子

41591 簡易ダブルスキンで構成されたロビーの空
調・換気システム(その2)温熱環境測定結果 ○水ト
慶子(ダイダン)・山岡 琢・早川 眞・鳥越順之

建築計画 I, II

5004 都心におけるコミュニティの場としての小
学校内子どもの遊び場研究 都心某区立小学校校庭内の
遊び場現状調査からなる遊び場の提案と活動 ○中田
弾(日本大大学院)・野村 歡・八藤後 猛

5006 教育内容の変化に対応した小・中学校の建築
計画に関する基礎的研究 教員および児童・生徒の意識
調査および実態調査を通して ○三浦康太郎(日本大大学
院)・野村 歡・八藤後 猛

5069 オープンプラン型教室における可動壁を用い
た遮音性能の改善について オープンプラン型小学校の
音環境に関する研究:その4 ○笠井 雄(日本大大学院)・
井上勝夫・富田隆太・貝瀬智昭

5070 オープンプラン型教室における可動壁を用い
た空間認識に関する検討 オープンプラン型小学校の音
環境に関する研究:その5 ○貝瀬智昭(日本大大学院)・
井上勝夫・富田隆太・笠井 雄

5163 特別養護老人ホームの職場環境調査に対する
意識調査 特別養護老人ホームの職場環境に関する研究
その1 ○鈴木信太郎(日本大大学院)・坂本 健・野村 歡・
八藤後 猛

5164 特別養護老人ホームの職場環境調査に対する
事例調査 特別養護老人ホームの職場環境に関する研究
その2 ○坂本 健(日本大大学院)・鈴木信太郎・野村 歡・
八藤後 猛

5203 ホームレス自立支援施設の現状調査 ○神山郁
子(日本大大学院)・野村 歡・八藤後 猛

5261 病児保育室の実態に関する調査 病児保育室
の建築計画に関する研究 ○小林卓哉(日本大大学院)・
八藤後 猛・野村 歡

5269 大規模公共体育施設の催物開催特性に関する
研究 真駒内屋内競技場の事例研究より ○矢野裕芳(日

本大大学院)・若色峰郎・渡辺富雄

5270 利用目的に合わせて転換する大規模屋内プールについて(調査報告) ○渡辺富雄(日本大)・若色峰郎・矢野裕芳・雨宮廣明・佐々木丈英

5278 プリーフ／プリーフィングに関する認識・有用性意識調査 その1：北海道における公共発注者の場合 ○土井友加利(岡村製作所)・友澤史紀

5279 プリーフ／プリーフィングに関する認識・有用性意識調査 その2：東京都における建築設計者の場合 ○染谷雅史(日本大大学院)・友澤史紀

5433 住宅内事故の種類と子どもの年齢別にみた、事故発生責任の所在意識に関する研究 乳幼児の住宅内事故における責任の所在に関する保護者の意識調査 その1 ○山城 亘(日本大大学院)・八藤後 猛・野村 歡・田中 賢

5434 子どもの住宅内事故発生責任の所在意識を決定づける要因に関する研究 乳幼児の住宅内事故における責任の所在に関する保護者の意識調査 その2 ○八藤後 猛(日本大)・山城 亘・野村 歡・田中 賢

5440 積雪期地震を考慮した病院防災対策に関する考察—新潟県立病院の比較分析— ○木村智博(東京大大学院)・神田 順・三橋博巳

5447 妊婦の日常生活困難動作からみた生活環境整備に関する基礎的研究 ○関東 舞(アップリカ葛西)・八藤後 猛・野村 歡

5600 盲導犬使用者および盲導犬の住環境に関する研究 補助犬使用者および補助犬の住環境に関する研究 その1 ○田中 賢(日本福祉大)・八藤後 猛・野村 歡

5604 中国集合住宅住戸の平面類型とその変化に関する研究 吉林省建築学科学生の体験された住戸プラン事例による調査 ○金 永男(日本大大学院)・宇杉和夫・李 公朴

5605 中国吉林省建築学科学生の考える家族像・住まい像 ○李 公朴(延辺大)・宇杉和夫・金 永男

5638 都営住宅再生事業による住戸改善と居住者意識に関する研究 江戸川中央一丁目アパートと西保木間二丁目第2アパートの事例を通して ○川手佑允(セントラル総合開発)・若色峰郎・渡辺富雄

5780 地域社会活動における高齢者参加に関する研究 ボランティア活動と町ぐるみ博物館活動の比較から ○福田卓矢・野村 歡・八藤後 猛

5790 個人型子供室住宅の子供居住形式に関する研究 居住形式による個室と住宅コモンスペースの関係 ○宮田智大(日本大大学院)・宇杉和夫

5838 日本住宅の多様な空間シーンの抽出に関する研究 その1 若者による住宅空間シーンの抽出とその分析 ○宇杉和夫(日本大)・田口徹也

5839 日本住宅の多様な空間シーンの抽出に関する研究 その2 小津安二郎「お早よう」の住宅空間シーン ○田口徹也(日本大大学院)・宇杉和夫

都市計画

7276 地域環境共生型集合住宅の緑系コモンスペー

スの位置づけに関する研究 多摩ニュータウン・堀之内長池地区における試み ○山田真揮(日本大大学院)・宇杉和夫・小島達雄・塚部 彰・宇野健一

7279 生産緑地を活用した「コミュニティ農園」の開設可能性に関する研究(その1) 国分寺市における生産緑地の実態をととして ○五味新治(日本大大学院)・加藤竜一・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7280 生産緑地を活用した「コミュニティ農園」の開設可能性に関する研究(その2) 国分寺市における生産緑地の評価 ○加藤竜一(日本大大学院)・五味新治・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7331 景観学習としての小学校学習空間に関する研究 その6 教室周辺からのビューの把握と提案 ○矢幡匡崇(日本大大学院)・宇杉和夫

7342 住民の「環境」意識向上方策に関する研究(その1) エコタウン事業を対象として ○中村 豪(日本大大学院)・羽場なつみ・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7343 住民の「環境」意識向上方策に関する研究(その2) エコタウン事業にもとづく活動の展開 ○羽場なつみ(日本大大学院)・中村 豪・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7455 市民緑地の管理・運営実態に関する研究 せたがやトラストと東京都練馬区の比較を通して ○平木陽一郎(日本大大学院)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7501 商業地区における屋外広告物の色彩に関する研究 千葉県船橋市における屋外広告物の実態と画像シミュレーション ○立唐寛之(日本大大学院)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

7507 夜間景観構成要素の簡易評価手法に関する研究 東京都渋谷区をケーススタディとして ○武田雄次(日本大大学院)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

建築経済・住宅問題

8057 民間事業者からみたオフィスコンバージョンの課題に関する研究 東京都心部のオフィスから住宅への転用実態をととして ○関 信行(日本大大学院)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

建築歴史・意匠

9038 チェコスロヴァキア工作連盟によるジードルンク展「新しい家(Novy Dum)」の概要と特徴 1920～30年代初頭における工作連盟のジードルンクについて その4 ○田所辰之助

9059 神宮工の大工職併有について 中世伊勢神宮の造営組織に関する研究 その5 ○浜島一成

9099 江戸近郊における新たな仏堂形式の成立に関する一考察 17C方丈型本堂の成立の背景 ○金 成都・片桐正夫

9269 アンコール遺跡、タ・ケオの刻線に関する一考察(その1) ○片桐正夫・重枝 豊・小島陽子

9270 アンコール遺跡、タ・ケオの刻線に関する一考察(その2) ○小島陽子・片桐正夫・重枝 豊

9273 カンボジア王国北スラ・スラン村の民家建築調査に関する概要報告 ○中山恵美子・片桐正夫・三輪 悟

建築との出会い・ 建築家としてのスタート

榎本弘之

筆者略歴

1955年 東京都生まれ
1977年 東京大学工学部建築学科卒業
～1983年 同大学大学院 修士・博士課程
1979年 竹山聖らと共に設計組織アモルフ
創設
1995年 株式会社榎本弘之建築研究所設立



「どうだ弘之、これは俺が10年前に塗った壁だ。」

——しかし祖父が指さす先にはただ平らな土壁が広がっているだけで、小学生にもならない私には何が良いのかまるで分かるべくもなかった。ただ、祖父の誇らしげな顔だけがくっきりと脳裏に焼き付いた。

昭和30年代の世田谷は、まだ小さな森もそここに残る静かな郊外住宅地だった。父は入り婿で、私はよく母方の祖父の自転車に乗せてもらって、いろいろなところへ連れて行かれたものだった。とはいえ連れて行かれるのは、決まって左官の頭領だった自分の作品がある家ばかり、遠くに行けるのは嬉しかったけれど、土壁を見させられても面白いはずはない。しかし子供心ながらに、自分の分身のような作品があちこちにいつまでも残っているのは凄いなあと祖父を眩しく見上げたのは、今でもよく覚えている。

父方の祖父は大工の棟梁だった。中学2年の時に実家を建て替えることになり、私は大衆向けの住宅雑誌をしたま買い込んでは、設計のまねごとをするようになった。といっても方眼紙に6畳や10畳の四角を描いては上手い纏まりを探すという全くのパズル遊びにすぎなかったが、展開図のようなものまで描いた記憶はある。工事が始まると、上棟ではあつという間に大きな建物の形ができてゆく様に度肝を抜かれたし、祖父がいともたやすく太い材木を切り、信じられない精度でぴたりと組み上げてゆくのが面白くて、学校が終わると現場に通うのが日課となった。完成した実家に引越した日などは、もう夢でも見ているかと思えるほどに嬉しかったのが、昨日のこのように想い出される。

こうした体験からか、大学では何のためらいもなく建築学科に進んだし、悩み多くはあっても設計製図は楽しくて仕方なかった。いつの日か自分の設計した建築が立上ったらどんなに素晴らしいだろう、そして日本中に分身がたくさんできたら親や子供に見せてやるんだと、祖父の顔を思い浮かべながら製図板に向かっていった。

大学院に進むと、オイルショックの影響をもろに被って凄まじい就職難となったし、当時友人と始めた学習塾が当たりのしたのもあって、何処かに勤めることなど考

える気もしなくなっていた。そんな中で、同級生とは「みんな設計事務所を始めよう」と、まるで当てもなく何度も夢を話していたものである。しかしある時、当時助手をしていた富永譲氏にこの話を聞かれてしまう。「もしそうなら、事務所の名前を決めて名刺くらい作っておかないと仕事に来て取れないぞ」という言葉にそのかされるようにしてできたのが《設計組織アモルフ》という名前である。実際の仕事がそう簡単に来るはずはないとは思いつつも、名前が決まると不思議に気持ちに張りがでて、必死に仕事を探し回った。このとき未来に不安はなかった。

こうして数カ月後、いくつか話が流れたあとで、仲間が現実の話を持ってきたのである。「将来大先生になってしまう人達が一丸となって設計してくれるなら、こんな名誉なことはない」との言葉に有頂天になって、基本設計はなんとか完成した。ところがどこにも勤めたことのない若者には、実施設計や申請の世界は全く分からないことだらけの真つ暗闇である。恥も遠慮もなく指導教官やツテを辿って何人も建築家に教えを請うた。特に安藤忠雄氏にはお世話になった。そうして図面や申請書の書き方を教わる中から、建築に対するもっと重要なことをさまざまに学んでいったのである。建築とは小さなミスも大きなトラブルになりうる非常に厳しい世界であること、デザインも施主の意向もコストもディテールも構造も設備も法規も近隣の迷惑も考え合わせ、全てを完璧なバランスで組み上げていく必要があること…しかしこうした難しさと同時に、実現したときには世界中にインパクトを与えうる信じられないくらい素晴らしい世界でもあることもまた、体で感じさせてくれたのだった。

今、設計を教えている中で、自分が両祖父から感じた素晴らしさと、さまざまに教えを請うた人々から教わった真摯な態度、そして自分で一から考えてきた建築観を、なんとか上手く学生諸君に伝えたいものだと思う。細かい設計の技術よりも、その方が将来ずっと君たちを勇気づけてくれるはずだと信じているから。

(えのもとひろゆき・非常勤講師)

環境に対する感性

三瓶満真

筆者略歴

1964年 神奈川県生まれ

1990年 明治大学大学院修了

1995～2001年

シーラカンズ(C+A)パートナー

2001年 インフィールドを設立



最近、駅などをはじめとする公共の場ではエレベーターやエスカレーターの整備が進み、体が不自由な方やお年寄りにも利用しやすくなった。大変結構なことではあるが、私はなるべく階段を利用するようにしている。最近気になってきている下腹のふくらみを少しでも抑えるためであり、階段のほうがすいていてせっかちな私にはストレスがたまらないからである。

こうした設備はもともとは社会的な弱者のために設置が進められてきたもののはずが、誰にでも使いやすいユニバーサルデザインの理念どおりに元気な若者たちにも積極的に利用され、貴重なエネルギーを消費する結果となっている。さらに、どこにでもあることが当たり前になったこんにち、建物内を垂直移動するにはこうした設備を用いることがむしろ普通の行動で、わざわざ階段を使うことが何か特殊なことであるかのような雰囲気すら感じる。

現代人の歩く距離が減少しつつあることは、それが引き起こす生活習慣病などの医療問題、社会保障問題などに直結し、国政レベルでも深刻な問題として議論されているそうだ。

私が問題にしたいのは、こうした状況により、都市や建築空間への関心が低下することである。人は歩くことで自分をとりまいている環境を強く意識することができるのではないだろうか。

旅行に出かけるといつもよりずっとたくさん歩くことができるという経験をお持ちの方は多いだろう。私自身もかつてイタリアやスペインの山岳都市を訪れたときなど、一日中歩き回ったことがある。知らない土地に行くと歩くことが楽しい。

自分が旅人のせいもあるだろうが、そうした空間に身を置いてみると、五感にさまざまな刺激が与えられるのを実感できる。目に入ってくる多様なシーンはもちろん、光や風、足裏の感触や体のバランス、においや音など、自分をとりまく環境に敏感になり、ちょっとした変化を新鮮に感じることができる。こうした感覚、いわば環境に対する感性は、歩くことによって初めて獲得でき、磨かれるのではないと思う。こうした感性が高まれば、

別に海外に出かけなくとも日常的に都市や建築空間への意識が高まり、より豊かな空間を求めるようになるだろう。その結果都市には魅力的な歩行空間が増え、ますます歩くことが楽しくなり、といった好ましい循環ができて上がるのではないだろうか。

建築は原則として社会から望まれるものしか実現できない（はずである）。効率的に大量の人間を移動させる設備よりも、時間がかかっても楽しく歩くことができる空間を望む社会であってほしいと思う。

私は一軒の住宅を設計するときにも、それができるとして、その前の道を歩く人にとって、新しい環境がもたらされるということを強く意識するようにしている。その環境が豊かなものであれば、それに触れることで環境に対する感性が刺激され、さらに豊かな空間が望まれることを期待するからだ。そういう下地ができて初めて私たち建築家が社会から切実に求められる存在になりうるのだと思う。

もちろん自分自身の環境に対する感性を磨くことも忘れてはいない。そのために五感のアンテナを敏感にして都市を歩き回っている。

（さんぺいみつまさ・非常勤講師）



宮城県迫桜高等学校（小嶋一浩＋三瓶満真／C+A）

校内の移動が多い高等学校において、移動が負担にならないよう、移動の途中でおこるさまざまな交流が意図された。



奈良の住宅（インフィールド）

プライバシーを確保しながら内部の活動を感じさせることで、住宅地の中にほっとできる明るい街角をつくった。（撮影：永石秀彦）

オープンキャンパス2004

学科連絡担当者として

富田隆太

8月1日(日)、記録的な猛暑の中、「オープンキャンパス2004」が船橋キャンパスで実施され、朝早くからたくさんの高校生・父母が来場されました。このオープンキャンパスは、7月18日の「駿河台入試フォーラム」、10月31日の「キャンパスウォッチング」とともに、「CSTとは何かを知る3日間。」と題された高校生と理工学部を繋ぐ行事を構成するイベントのひとつです。それぞれ特徴をもっていますので、参加することで、理工学部の実感がみえるように企画されています。

建築学科は、新設された14号館の1433教室でミニ講義と1455・1456教室で学科紹介プログラムを行いました。

ミニ講義は、環境系から関口先生、構造系から半貫先生が担当されました。関口先生は、「女神像の秘密—ホールの室形と音の響き—」と題して、ホール音響を含め、総合的に環境工学を、半貫先生は、「南極の建築—日本のプレハブ住宅の原点—」と題して、南極の建築物の構造から観測隊員の生活に至るまでそれぞれわかりやすく講義されました。教室は立錐の余地もなく、369名の高校生たちに建築の幅広い分野と面白さを知ってもらう場を提供しました。

学科紹介プログラムには338名の参加者がありました。テーマは、「つくるたのしさ、つくるよろこび!」。ペーパーストラクチャー(岡田先生)、ペーパークラフト(佐藤先生)の「モノづくり」に、夢中で取り組みました。

会場レイアウトは佐藤先生が担当、学生の設計作品の展示や模型、各研究室紹介パネルに見入る高校生も多く見かけました。建築学科を理解してもらうために用意した「駿建」、「研究室ガイド」などの資料も足りなくなるほどの盛況でした。

学科相談会では、多くの先生方にご協力いただきました。質問内容は、入試に関することから、学習内容、学生生活、ひいては卒業後の就職や資格まで多岐にわたりました。高校生にとっては、大学の先生や在学生と身近に話ができただけで、非常に充実している様子が伺えました。

最後に、本年度、広報委員会との連絡担当者として、「モ

ノづくり」の大切さを勉強させていただきました。これも、先生方や学生諸君の協力があったことです。とくに、前々日からの準備作業や当日の運営に参加していた井上研究室、斎藤研究室、高宮研究室、半貫研究員の大学院生・学部生等々に感謝いたします。

(とみたりゅうた・助手)

会場をうめた
高校生



ミニ講義風景



モノづくり体験



記憶に残る一冊（その2）

■ 高宮眞介 教授

ニコラス・ペプスナー [小林文次 訳] 『ヨーロッパ建築序説』 (彰国社)

大学時代の歴史の教科書として、卒業後、滞欧中の建築ガイドブックとして、そして今、授業の参考文献として、3度もお世話になった一冊。

■ 早川 眞 教授

私も建築学科の学生になったころ、人並みに著名建築家の著書を読み始めましたが、難解な言葉、文章が多く、こんなこと知らなくても家は建つわいと、それからはいわゆる世界文学全集のほうに偏った記憶があります。僅かに伊東忠太の日本の古建築は興味を引きましたが、あくまで教養の域を脱せず……。このことで私はエンジニアの道を選んだのだと思います。まことに恥ずかしい限りですが、記憶に残る一冊はないのです。

■ 本杉省三 教授

R. ヴェンチュリー 『建築の多様性 対立性』 (鹿島出版会 SD 選書)

ミースの“less is more” に対して “less is bore” という言い回しをしてモダニズムの純粋性に対抗する根拠を示している。学生時代、こんな見方もあるんだと楽しく読んだ。

■ 横河 健 教授

カレル・ヴァン・ウォルフレン 『人間を幸福にしない日本というシステム』 (毎日新聞社)

美しい国だったはずのこの日本を醜い国にいつの間にか変えてしまい、今もなお変え続けていることにたいして、まったく無関係でない作る側の人間として生きようとする諸君にどうするべきかを教えてくれる。

■ 重枝 豊 専任講師

鈴木成文、上野千鶴子 他 『「51C」 家族を容れるハコの戦後と現在』 (平凡社)

戦後の応急住宅だったはずの「51C」。計画者の思惑を超えていつしか住宅のミニマム・スタンダードとして定着してしまった。家族の変容にとともに変革を求められている住居のあり方を考える好著。上野千鶴子著『家族を容れるハコ 家族を超えるハコ』 (平凡社) と併せて2年生で住宅を設計を始める前に読んでほしい。

■ 石垣秀典 助手

リチャード・ビショップ [中山秀太郎 訳] 『振動とはなにか』 (講談社ブルーバックス)

振動現象を分かりやすく解説した入門書。構造物に関する事例も紹介されている。

■ 八藤後 猛 助手

矢田 洋 『建築馬鹿』 [たしか全5巻] (鳳山社)

中学1年生のとき、よくわからず書店で手にとり、初めて読んだ建築評論？ 有名建築家の名前もこの本で初めて知り、建築の価値観に破壊的ともいえる影響を受けてしまう。1994年に復刻版が出たらしい。キャッチフレーズは、なんと「正統な建築ジャーナリズムから黙殺されつづけたロングセラーの復刻選集」——やっぱりそうだったのか。復刻版：『建築馬鹿選集』 (鳳山社)

■ 加藤末佳 副手

『エコロジー建築』 (青土社)

ドイツ「エコテストマガジン」翻訳本。エコロジー建築を通して快適な建築とは何か考えるきっかけになります。

■ 小石川正男 短大教授

和辻哲郎 『古寺巡礼』 (岩波書店)

古寺見学の印象記であるが、著者の自由な想像力と空想の表現が、実際に建築や古美術を眼前にするかのように伝わってくる。

■ 中山 優 短大教授

Mario Salvadori, Robert Heller 『Structure in Architecture』 (丸善)

著者はアメリカのストラクチャーデザイナー。イラストとスケッチを用いて、構造概念と設計の基本的なアプローチを分かりやすく解説している。

■ 吉野泰子 短大教授

『PASSIVE BOOK』 (OMソーラー協会)

パッシブについてお話しします。What is passive? それは、自然に向けて住まいを開くことです。それは、最先端の技術です。熱や空気をデザインすること、地球をいつくしむ想いがこめられた純白の装丁、しかも完全リサイクル品。読後は、表紙が日時計へ。宮沢賢治の世界をも想起させる私のお気に入りの一冊です。

■高宮眞介教授を委員長とする日本大学理工学部駿河台1号館建設委員会の「日本大学理工学部駿河台校舎1号館」(共同設計:佐藤総合計画)と、齋藤公男教授の「山口県立きららスポーツ交流公園多目的ドーム」(共同設計:日本設計)が、「第45回BCS(建築業協会)賞」(主催:㈱建築業協会)を受賞した。

■小石川正男短大教授、吉野泰子短大教授、羽入敏樹短大専任講師は、9月21~25日、中国と短大建設学科との学術交流協議のために商洛師範専科学校の要請を受け、現地を訪問した。

■齋藤公男教授は、9月20~24日にフランス・モンペリエで開催されたIASS(国際シェル空間構造学会)の国際シンポジウム「From Model to Realization」にて、「From Imagination to Creation」と題する基調講演を行った。

■秋山宏教授が㈱日本建築学会会長、三橋博巳教授が同理事に昨年就任したのに引き続き、齋藤公男教授が同副会長に就任した。

■小石川正男短大教授、山口幸一郎副手の研究グループは、「第6回提案競技美しくまちをつくる、むらをつくる浦安市長賞」(主催:㈱日本建築学会関東支部)を受賞した。同研究グループでは、第1回、第2回に続く3回目の入選である。

■谷畑佐和子さん(関口研4年)の「伸び縮みする光」が、「第17回コイズミ国際学生照明デザインコンペ 佳作」(主催:小泉産業㈱)を受賞した。「地球環境 持続可能性のあかり」をテーマに、海外からの

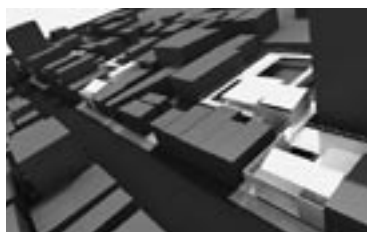


伸び縮みする光

教室ぶろむなード

応募を含めた858点より選ばれた。2次審査では、実物大の点灯可能なモデルにより審査が行われる。

■和田篤君(高宮研M2)の「コウバリバイバル」が、「第39回セントラル硝子国際建築設計競技 入選」(主催:セントラル硝子㈱)を受賞した。「アジアフロント・ヴィレッジ」をテーマに、海外からの応募を含めた575点より選ばれた。



コウバリバイバル

■石崎哲也君(今村研M2)、道津空人君、中田幸宏君(以上、高宮研M2)の「妻有の入口」が、2006年に開催される「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2006 プロポーザルコンペティション」(主催:大地の芸術祭実行委員会)において、474点の応募から参加候補作品として選ばれた。新潟県の越後妻有地域の美しい里山を舞



(左) ワークショップ風景



(右) 十日町パキング

台に、斬新なアイディアによるアート作品が求められたもの。2006年夏に制作・展示される予定。

■落合正行君(高宮研M2)の「Yokohama Artvillage Project」が、「2004年度日本建築学会設計競技 支部入選(関東支部)」(主催:㈱日本建築学会)に選ばれた。テーマは「建築の転生・都市の転生」。

■岡田章助教授、佐藤慎也助手、宮里直也非常勤講師が設計に携わった「中国木材名古屋事業所」(設計:福島加津也+富永祥子建築設計事務所)が、「第1回木質建築空間デザインコンテスト一般建築部門優秀賞」(主催:日本エンバイロケミカルズ㈱)と「2004年度グッドデザイン賞」(主催:㈱日本産業デザイン振興会)を受賞した。

■齋藤研究室の主宰により、7月30、31日に建築会館で「第4回スチューデント・サマー・セミナー」が開催された。テーマは「空間と構造の交差点 Back to the Fuller/Forth to the Future ~ストラクチャルデザインのゆくえ~」。このセミナーは日本建築学会が主催するもので、ものづくりの楽しさを体感してもらうことが主旨。本学をはじめとして、東工大、東大、芝浦工大、立命館大など“未来のフラー”を目指して空間構造を学ぶ学生約150名が、レクチャーとワークショップに参加した。

●駿建目次

(2004.11 Vol.32 No.3 通巻130号)
表紙「2004年度 スーパージュリー」
撮影:芥川文恵+平田真貴

SUPER JURY 2004

シーザー・ペリ、日大にcoming!

第36回建築学生海外研修旅行報告

オリエンテーション報告

2004年度 日本建築学会大会(北海道)

建築学科教室関係者発表論文リスト

2

4

5

10

11

私と建築

オープンキャンパス2004

記憶に残る一冊(その2)

教室ぶろむなード

16

18

19

20